



熊沢 直紀 議員

## Q・教職員の多忙化の解消は

## A・調査書類等の縮減、保護者対応や部活指導は複数の教職員で対応



本年7月末、文部科学省発表の公立小中学校職員の長時間労働実態調査によれば、以前から指摘されている長時間労働の改善がされていない状況が浮き彫りになった。

**Q** 教師の多忙化について教育長の見解はどうか。

**A** 教育長

当町の小中学校の職員も多忙である。

**Q** 教師の多忙化に関する調査を行ったことはあるか。その結果はどうか。

また、多忙等による教師の休職状況はどうか。

**A** 教育長

行ったことはある。97%の教員が身体的、精神的疲労感がある。27年度は1名である。

**Q** 文部科学省の報告によれば、「国や教育委員会からの調査・アンケートへの対応」が最も負担を感じるとあったが、多忙化の原因は主に何か。

**A** 教育長

事務の多さ、保護者の対応、部活指導の負担である。

**Q** その対応はどうか。

**A** 教育長

調査や提出書類の縮減化、保護者の対応については、複数の職員で対応。部活指導は複数の教師が交代で指導、外部講師を招聘。



朝のミーティング

## Q・子宮頸がんワクチンの副作用に対する支援は

## A・先進的な他市の例を参考にする

子宮頸がんワクチン

接種後に、手足の痛みなどの副作用が出ている報告が、中部9県で135件とのこと。国の救済が進まないため、碧南市などの自治体が医療費支援に乗り

出している。

**Q** 子宮頸がんワクチン接種者数及び副作用の届出の現状はどうか。

**A** 生活福祉部長

182名。副作用の届出はなし。

**Q** 今後、副作用がある患者が申し出てきた場合の対応は。

**A** 生活福祉部長

先進的な他市の例を参考にし対処する。